

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（平成2年度版）

法人名	特定非営利活動法人 自遊の広場	代表者	理事長 宮内 眞	法人・ 事業所 の特徴	○古民家を使い、高齢者がなじみやすい場づくりを心掛けている ○地域住民やボランティア等、誰もが入りやすい雰囲気づくりをしている。 ○日常生活圏域・とりわけ事業所近辺の濃い人間関係が、良くも悪くも日常生活に反映する。個人情報管理や力関係に気を配る必要もある。
事業所名	すずかけの家	管理者	宮内 知子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他・民生委員	合計
	人	2人	0人	人	1人	1人	人	(3)人	0人	4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み 結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○より多数の非常勤職員が参加かつ高能率の方法を追求する ○利用者の本音を探る努力を。	昨年度に続き、参加者は多めだった。ただ、リモート会議ということもあるのかもしれない。	非常勤職員は、在宅の方がリモート会議に参加しやすいと思われる。	コロナ終息後に再度様子を見た。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所の様子を知らない委員がいる事、コロナで事業所訪問もできず、ノーコメントである。		民生委員が3人とも新任となった(2019年11月より)。2020年4月から、活動を停止している期間が多い。	不能
C. 事業所と地域のかかわり	なし		○今年度は地域イベントが無い。 ○台風19号時、近所の住民が利用者を自宅に避難させてくれた。 ○同時刻同場所で徘徊する利用者がいて、地域住民と顔見知りになった。	(今回、課題設定が出来なかったが、いい兆しが出ていると思われる) 不能
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	○「藤野」という日常生活圏域の特徴⇒人間関係の濃さを武器に、いっそう地域に出向くようにする。		上記Cの例からも、「藤野」住民の関係の濃さが、地域ネットワーク化に繋がっていくのではないかと。	継続
E. 運営推進会議を活かした取組み	○運営推進会議がより事業者と情報や認識が共有する方法を追求する。	防災訓練のけいかく・実行が不可能だった。		継続
F. 事業所の防災・災害対策	○地域住民と共に運営推進会議のメンバーが、訓練に参加できる方法を考える			